

# 概況



総務省消防庁主催 令和5年度土砂・風水害対応訓練

# 1 概 況

本市は、中国地方の東南部に位置し、中国山地を背にした風光明媚な瀬戸内海に臨む面積789.95km<sup>2</sup>、人口約70万人の岡山県の県都で、京阪神、九州、四国を結ぶ重要な地点にあり、古くから海陸交通の要衝として知られている。

本市は、旭川と吉井川が瀬戸内海に注いでひらけた岡山平野の中央に位置し、南部は地味豊かな沃野がひらけ、北部は吉備高原につながる山並みが広がっている。温暖な瀬戸内特有の風土により、春秋は快晴の日が多く、冬は厳しい季節風を中国山地がさえぎり、積雪をみることはまれである。毎年本土を襲う台風も、四国山脈が防壁になって勢力が弱められ、影響が比較的少ないなど自然条件には非常に恵まれている。

また、市域の大部分が平坦で岡山平野の一部をなし、恵まれた気候風土により、田畑が広く開けて農業が営まれ、なかでも味覚豊かなマスカット、メロン、桃などの農産物は有名である。

本市の歴史は遠く400余年の昔にさかのぼることができる。天正元年に宇喜多直家が岡山の地に城を築いたことに始まり、以来270年小早川、池田と藩主が引き継がれ、城下町として栄えた。

なかでも、寛永9年に藩主となった池田光政は名君の誉れが高く、学問の奨励、藩政の改革、新田の開発などに功績を残した。

その後、版籍奉還、廃藩置県を経て明治22年6月1日市政施行により、面積5.77km<sup>2</sup>、人口47,564人の岡山市が誕生した。

明治24年3月、山陽鉄道（現在の山陽本線）が岡山まで延長開通すると、近代都市として急速な発展を遂げ、隣接村と合併しながら昭和15年には人口176,976人を擁する都市にまで発展した。しかし、昭和20年6月29日の岡山空襲により市街地はほとんど焦土と化し、人口92,605人にまで激減したが、戦後直ちに復興事業に着手し、市民の復興への熱意もあって市勢は飛躍的に回復した。

昭和27年4月には全国的な市町村合併の流れに乗り、隣接する牧石、大野、白石、今村、芳田、甲浦、三幡、沖田、操陽、富山の10か村と、翌年3月には牧山、高月村の各一部と、さらに昭和29年4月には高島、幡多、財田、小串の4か村及び御津郡の一部を編入した。

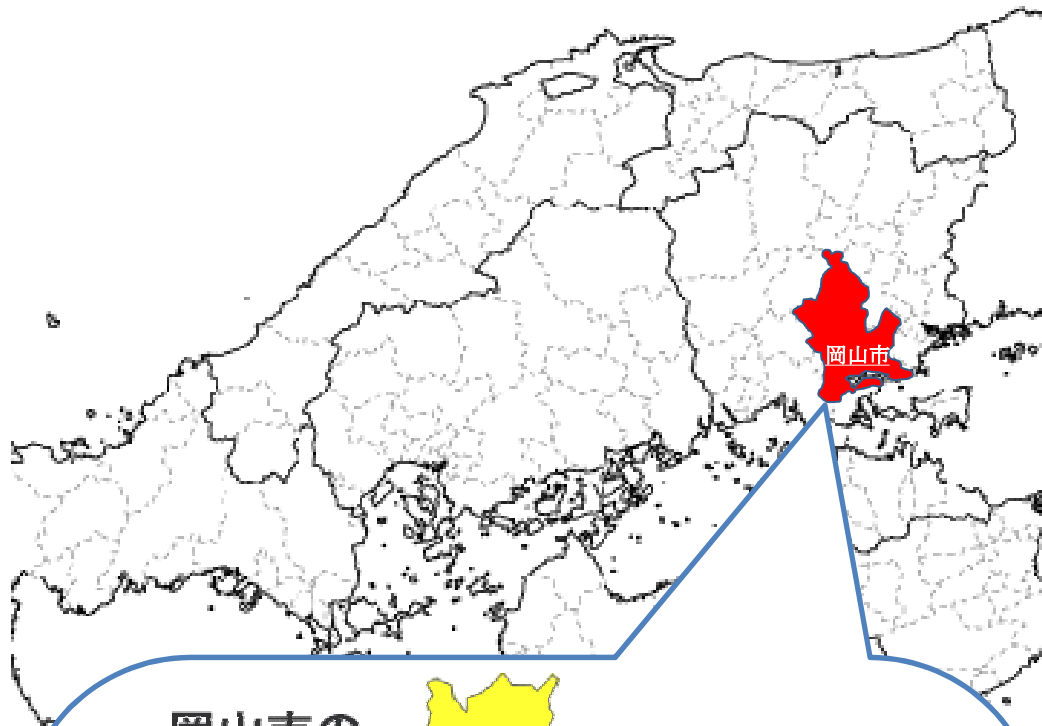
昭和44年2月18日、日本3大奇祭の一つである「西大寺会陽」で有名な西大寺市との合併により、都市基盤は一段と強化され、急速な躍進を遂げた。さらに昭和46年から50年にかけて隣接する一宮、津高、高松、吉備、妹尾、福田、上道、興除、足守、藤田の7町3村と合併し、人口50万人を超えた。

昭和63年には岡山空港開港、瀬戸大橋が開通し、その後の山陽自動車道、岡山自動車道の開通により中四国における交通の拠点性は一段と高まり、平成8年4月1日には中核市に移行し、文字どおり地方中核都市となった。

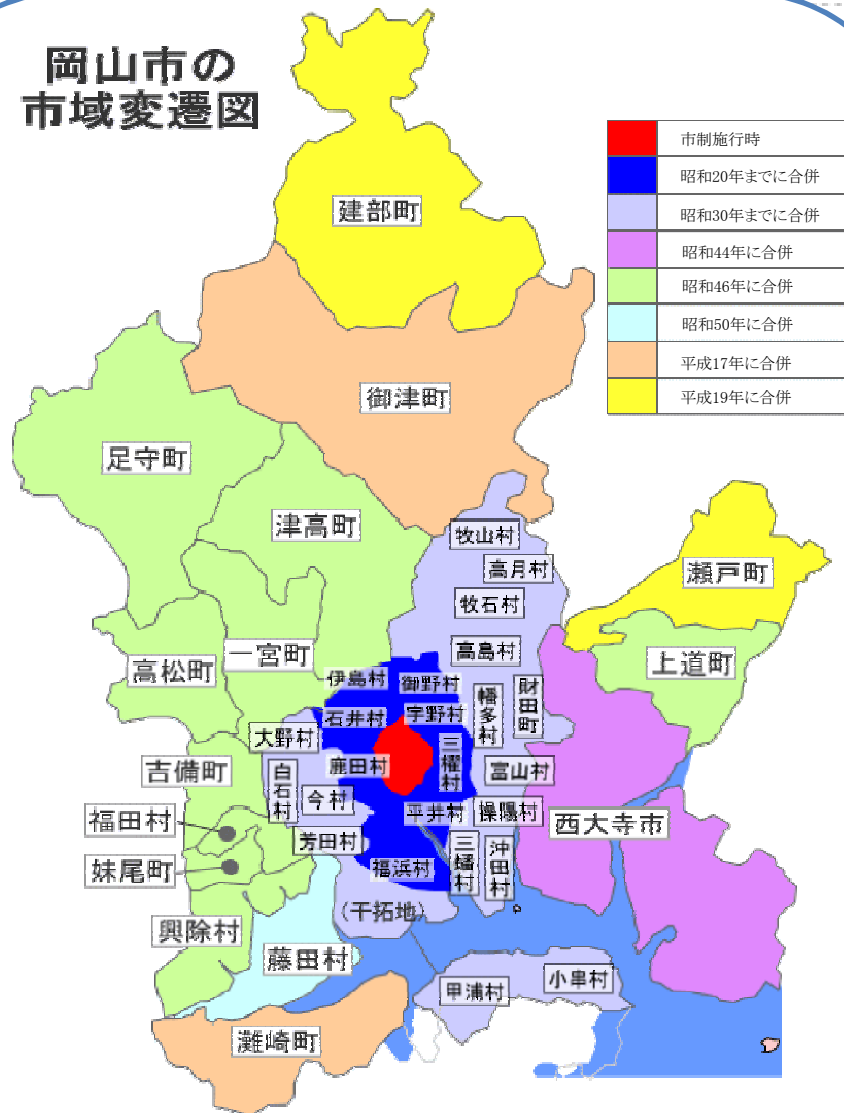
平成17年3月22日には御津、灘崎の2町と、平成19年1月22日には建部、瀬戸の2町と合併し、人口約70万人を擁することとなる。

そして、平成21年4月1日には、政令指定都市へと移行。「水と緑が魅せる心豊かな庭園都市」・「中四国をつなぐ総合福祉の拠点都市」をその将来都市像として掲げ、中四国の拠点都市にふさわしい活気と魅力あふれるまちづくりを進めるとともに、真の地方分権の実現に向け、広域圏における先導的な使命と役割を果たす都市を創造している。

将来を見据えた市政運営の羅針盤となる岡山市第六次総合計画の長期構想（～令和7年度まで）では、「未来へ躍動する桃太郎のまち岡山」を都市づくりの基本目標に掲げ、「住みやすさに一層の磨きをかけること」・「未来志向の躍動感のあるまちづくりを進めること」を基本コンセプトとし、これらを市民と行政が協働して進めていくことで、まちの変化を創出し、まちの活力、市民の愛着と誇りを高めることとしている。



## 岡山市の市域変遷図



## 2 市 勢

R6.4.1

面 積	789.95km <sup>2</sup>
人 口	696,280人
世 帯 数	340,187世帯

## 3 常 備 消 防 現 勢 比 較

R6.4.1

	人 口	世 帯 数	面 積
消防職員1人当たり(779人)	907人	443世帯	1.36km <sup>2</sup>
消防車1台当たり(76台)	9,297人	4,544世帯	13.9km <sup>2</sup>
救急車1台当たり(非常用除く21台)	33,645人	16,445世帯	50.4km <sup>2</sup>
署所1か所当たり(19か所)	37,186人	18,176世帯	55.7km <sup>2</sup>

## 4 管内情勢

R6.4.1

	面積 (km <sup>2</sup> )	世帯数(世帯)	人口(人)
総 数	1,058.73	345,336	706,539
北消防署(合計)	302.56	87,469	161,146
本署	7.32	32,669	53,229
番町分署	35.50	18,225	32,448
津高出張所	49.27	8,973	19,357
御津 〃	114.42	4,318	8,645
建部 〃	89.53	2,507	4,977
今 〃	6.52	20,777	42,490
西消防署(合計)	417.28	68,038	142,694
本署	55.01	52,723	109,464
高松出張所	93.49	10,166	22,971
吉備中央 〃	268.78	5,149	10,259
中消防署(合計)	51.24	70,041	145,970
本署	14.98	25,096	51,454
倉田出張所	23.93	27,634	58,328
竜操 〃	12.33	17,311	36,188
東消防署(合計)	160.28	42,644	91,737
本署	56.78	13,267	28,042
上道出張所	38.38	9,393	20,155
可知 〃	23.34	12,682	28,345
瀬戸 〃	41.78	7,302	15,195
南消防署(合計)	127.37	77,144	164,992
本署	44.74	47,981	98,336
妹尾出張所	51.77	22,658	51,872
灘崎 〃	30.86	6,505	14,784

※署所面積は概数です。面積総数と一致しない場合があります。

## 5 消防情勢の推移

区分	年	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
面積 (km <sup>2</sup> )		1,058.74	1,058.74	1,058.73	1,058.73	1,058.73	1,058.73	1,058.73	1,058.73	1,058.73	1,058.73
人口 (人)		717,594	718,831	719,554	719,225	718,693	718,999	717,555	713,310	710,001	706,539
世帯数 (世帯)		320,203	323,695	326,956	329,966	333,217	336,912	340,091	341,699	343,225	345,336
消防職員数		690	693	705	728	746	763	764	766	771	779
消防団員定数※		4,660	4,660	4,660	4,660	4,660	4,660	4,660	4,660	4,660	4,660
一人当り	面積	1.5	1.5	1.5	1.5	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4
	人口	1,040	1,037	1,021	988	963	942	939	931	921	907
	世帯数	464	467	464	453	447	442	445	446	445	443
等	消防ポンプ	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
	救急車	20	20	20	20	20	21	21	21	21	21
	その他の車両	51	52	51	51	51	51	51	51	51	51
一台当り	面積	35.3	35.3	35.3	35.3	35.3	35.3	35.3	35.3	35.3	35.3
	人口	23,920	23,961	23,985	23,974	23,956	23,967	23,919	23,777	23,667	23,551
	世帯数	10,673	10,790	10,898	10,999	11,107	11,230	11,336	11,389	11,440	11,511
一台当り	面積	52.9	52.9	52.9	52.9	52.9	50.4	50.4	50.4	50.4	50.4
	人口	35,880	35,942	35,978	35,961	35,935	34,238	34,169	33,967	33,809	33,645
	世帯数	16,010	16,185	16,348	16,498	16,661	16,043	16,195	16,271	16,344	16,445
火災件数		187	175	243	182	200	183	193	165	215	-
救急出動件数		30,795	31,453	32,074	33,997	33,103	29,733	30,742	36,227	38,201	-

※岡山市分のみ(火災件数及び救急出動件数については吉備中央町分を含む)

## 6 消防庁舎の現状

名 称	構造 ・ 階数	建築年月	面 積			備 考
			敷地㎡	建面積㎡	延面積㎡	
消 防 局	RC造9階/地下2階建	S43.6	10,913.38	4,292.62	27,595.65	合同庁舎 市庁舎7階（消防企画総務課 ・予防課・警防課・救急課）
消防航空隊	S造2階建	H14.2	2,794.43	918.28	1,097.52	岡南飛行場内
消防教育訓練センター	SRC造8階建他	H13.3	43,234.81	1,071.72	1,732.28	訓練棟3棟・車庫棟・管理棟・倉庫 別途グラウンドあり (16,900㎡)
北消防署						
本署	免震構造 S造6階建	H28.3	5,634.01	1,197.58	5,902.66	別途車庫倉庫棟あり (建529.02㎡/延1,058.04㎡)
番町分署	S造2階建	H26.3	1,155.71	487.57	944.48	
津高出張所	RC造2階建	S61.3	1,000.06	299.77	356.89	
御津出張所	RC(一部S)造2階建	H3.3	995.00	345.97	550.89	
建部出張所	S造2階建	H29.2	1,143.79	320.93	488.68	
今出張所	S造2階建	H24.3	1,575.96	607.19	750.94	
西消防署						
本署 高機能消防指令センター	免震構造 RC(一部S)造5階建	H20.12	3,772.09	1,188.45	4,148.17	別途車庫兼訓練棟あり (建170.43㎡/延230.48㎡)
高松出張所	S造3階建	H29.3	1,247.55	391.31	854.39	高松地域センターとの 合同庁舎
吉備中央出張所	S造2階建	H16.3	1,000.02	377.57	503.00	附属棟面積含む
足守救急ステーション	S造平屋建	H17.2	883.03	258.24	210.00	
中消防署						
本署	S造3階建	H23.3	2,447.12	1,084.93	2,618.93	下水道河川計画課管理の 水防倉庫面積含む
倉田出張所	S造2階建	R2.7	1,260.58	444.39	802.64	
竜操出張所	RC造平屋建	S54.3	1,763.93	379.93	316.05	
東消防署						
本署	S造4階建	H26.8	8,374.39	2,622.33	6,774.97	東区役所・東水道センター との合同庁舎
上道出張所	S造2階建	H19.3	1,003.00	407.52	554.99	
可知出張所	RC造2階建	H1.3	1,086.69	333.40	405.86	
瀬戸出張所	RC(一部S)造2階建	H16.2	1,583.00	309.03	423.83	
南消防署						
本署	S造3階建	R3.12	7,871.00	1,096.94	2,473.56	敷地内に水難救助訓練施設建築予定
妹尾出張所	RC造2階建	S51.3	629.16	274.64	320.93	
灘崎出張所	S造2階建他	H8.11	1,511.00	414.74	529.58	倉庫棟面積含む

注1：表中の数値（備考欄は除く）は、管理棟のものを記載（消防教育訓練センター除く）。

注2：合同庁舎については、庁舎全体の数値を記載。



## 7 管轄区域と署・所配置図



# 8 沿 革

## 1 藩政時代

寛永 19 年(1642 年)10 月岡山藩は「火事之節法度之条々」制定、延宝 2 年(1674 年)7 月に「町方失火罰則」を設け、次いで延宝 6 年(1678 年)7 月に火事の事前警戒措置として「立番」を設け、町内に 4 人程度の立番制をしいて火の用心回りをした。

貞享 2 年(1685 年)12 月には城下の火事に対する環境施設として、近在に「火之番小屋」を置き、「郷中火防夫」を定めた。貞享 3 年(1686 年)には岡山藩の「火警法」に「町火消」に関する定が載り、火事場に繰り出す火消衆の数を制限し、また野次馬厳禁の示達を出している。この「町火消」は城下火事の場合には町奉行の指揮により消火に従事した。

## 2 明治時代

明治維新の大業なり、諸制度の一新により消防も大きく変改され、明治 7 年(1874 年)3 月に在来の町火消を消防組に改組し、次いで明治 11 年(1878 年)岡山県令に基づき消防組を再編成した。

明治 15 年(1882 年)には岡山区消防組規則を改正し、消防体制の強化を図り、2 年後の明治 17 年(1884 年)には消防ポンプ 3 台を購入した。

明治 22 年(1889 年)6 月 1 日岡山市制施行により消防組織の強化を図り、明治 24 年(1891 年)7 月には「岡山市消防隊規則」を制定した。

明治 27 年(1894 年)2 月勅令第 15 号により、「消防組規則」が公布されたことによって、同年 5 月既設の消防隊を解消し、岡山消防組を組織し、同じ頃西大寺地区にも消防組が組織された。

## 3 大正時代

大正 3 年(1914 年)英国製蒸気ポンプを購入し市役所に設置、機関士 3 名を常勤とした。

大正 12 年(1923 年)2 月岡山西消防組の設置により、岡山東・西消防組制度を確立した。

大正 13 年(1924 年)1 月自動車ポンプ 1 台を購入し、同時に望楼勤務を開始した。

## 4 昭和時代

### ○岡山消防組

昭和 5 年(1930 年)10 月 1 日、岡山東・西消防組を統一し、全市を管轄する岡山消防組を設置し、新たに常備部を設ける。東中山下に本部を置き、詰所を大供、奉還町、旭東の 3 か所において、自動車ポンプ 4 台、部員 31 名をもって交替勤務制とした。(消防署の前身となった)。

### ○警防団

昭和 14 年(1939 年)4 月 1 日警防団令の公布により、岡山市警防団、西大寺警防団を結成した。岡山市警防団は団本部、常備消防部、16 分団、団員 2,182 名をもって組織された。

昭和 20 年(1945 年)4 月岡山市警防団は、し烈な戦局に対処するため、岡山東・西警察署の管轄区域に区分し、岡山東・西警防団の 2 団制をとり、太平洋戦争終了後まで続いた。

### ○消防団

太平洋戦争において消防組織は強化されることとなり、昭和 22 年(1947 年)消防団令が公布され、同年 11 月 1 日消防団は 1 団、常備消防部 16 分団、総人員 1、507 名をもって発足した。

## ◎ 自治体消防

昭和23年6月	消防組織法施行により消防団常備消防部を廃止し、岡山市消防本部・消防署を設置 機構は、1本部1署6派出所・消防職員数97名・消防車両7台で発足 消防団も法定団体として自治消防の原則に従い、同法第15条により、岡山市消防団に関する条例を制定し、同年6月1日から新しい民主的な組織として再発足
昭和23年8月	消防法公布施行(法律第186号)、消防本部・消防署が行う各行政行為に法的権限を与え、職務は一段と飛躍、火災鎮圧を唯一の職務とした消防から脱皮して、火災の予防を積極的に遂行し、市民の生命、身体、財産を守り社会安寧を維持、幸福を増進する福祉行政を担当するに至る
昭和24年1月	消防体制の強化を願う地元住民の熱烈な運動により、市内福島に木造平屋建が寄付により新築移転され、新福浜派出所として発足
昭和25年1月	消防職員数124名、消防車両11台
昭和26年1月	消防署の下に南北地区体制をとり、第一線消防力を強化 少年消防クラブ発足
昭和27年3月	予防査察員制度誕生
昭和27年4月	隣接10か所を合併編入し、更に29年4月には隣接4か町村を合併し、1団1本部33分団となる
昭和30年3月	消防艇配置
昭和30年9月	消防業務の複雑高度化に伴い、機構改革を実施し1本部、2消防署、4出張所となり、指揮系統を明確化するとともに第一線消防力を強化 消防職員数124名、消防車両14台
昭和32年11月	岡山市消防本部における救急業務を開始、救急車1台
昭和33年12月	高層建物火災に対処するため18m級はしご消防自動車購入 消防職員数135名、消防車両15台
昭和35年4月	多様化する消防業務を円滑に遂行するため、本部機構を改革して3係制を廃止、庶務課・消防課を新設
昭和37年1月	南消防署旭東出張所を新築移転
昭和37年6月	西大寺市では時代の要請するところにより、消防団に常備部を設置し、常備体制を整備
昭和37年8月	消防本部機構改革で、予防課新設、増大する予防行政に対処 1本部3課、2署、4出張所、消防職員数162名、消防車両21台
昭和39年1月	北消防署三門出張所を新築移転
昭和39年7月	北消防署を新築移転
昭和39年7月	西大寺市では、政令第16号に基づき消防署設置指定をうけ、消防本部・消防署設置、これにより消防団常備部は発展的解消
昭和40年8月	北消防署御野出張所を新築移転

昭和40年11月	岡南工業地帯における大規模特殊災害に対処するため化学車購入 消防職員数180名、消防車両21台
昭和41年12月	高層建物災害に対処するため30m級大型はしご車購入 消防職員数180名、消防車両29台
昭和44年2月	西大寺市との合併による新岡山市誕生により、1本部、3署、4出張所、消防職員数225名、消防車両34台 消防団は岡山消防団34分団1,478名、西大寺消防団16分団700名の2団制採用
昭和44年4月	増大する予防行政を更に強力に推進するため、防火委員会制度を発足
昭和44年12月	市民の防火意識の高揚と消防訓練の徹底を習慣づけ、火災予防の推進を図るため、毎月20日を防火の日と制定
昭和45年7月	機構組織の強化充実を図るため、消防局制を施行
昭和45年10月	岡山、西大寺消防団は合併し、1団、1本部、50分団、定員2,178名として発足 救急体制を強化するため、県下で最初の救急コントロールセンターを設置し救急需要に対処
昭和46年～ 昭和47年	昭和46年隣接9か町村を合併編入したことに伴い、津高・庭瀬出張所に続いて昭和47年には妹尾・吉備津・鉄出張所を順次開設し、消防力を格段と強化 これにより1局、3署、9出張所、消防職員数302名、消防車両33台、消防団は1本部79分団、定員3,785名
昭和47年11月	市内西南部に対する消防体制の強化充実を図るため、南消防署庁舎を新築移転
昭和48年10月	高層ビル火災に対処するため40m級はしご車を購入し、南消防署に配置 消防職員数314名、消防車両41台
昭和49年6月	人命優先の立場から消防特別救助隊が正式に発足。高層建築物、地下街等の火災防ぎよ・人命救助の特別救助活動の警防体制を強化
昭和50年4月	無線不感地区の解消と広域無線の確保のため、貝殻山山頂に無線中継基地の建設を行い、通信体制を強化
昭和50年5月	隣接藤田村との合併により、消防団は1本部、83分団、定員3,925名
昭和50年11月	一般加入電話の普及により、その効用がなくなり、火災報知機を全面廃止
昭和51年4月	市民サービス向上のため火災テレフォンガイド装置を設置
昭和51年4月	南消防署妹尾出張所を新築移転。同時に、妹尾、福田、興除、藤田地区の救急体制を強化するため、救急車を配置 職員数341名
昭和51年9月	一般加入電話の普及及び高層ビルの増加により、望楼発見が困難となり、その効用が著しく減少したため、南北両消防署を残し、4出張所(旭東、福島、三門、御野)の望楼勤務を廃止
昭和51年12月	市民との連携融和を図り、消防広報に大きな効果を期待しつつ、岡山市消防音楽隊が発足 岡南油そう地帯に対処するため、泡放射砲車並びに原液搬送車を配置 31日をもって、南北両消防署の望楼勤務を廃止
昭和52年4月	定員増20名により、職員数361名

昭和52年8月	南消防署庭瀬出張所新築移転
昭和53年4月	定員増16名により、職員数377名
昭和53年10月	岡山市消防団83分団の組織的運用の強化を図るため、12方面隊組織を編成
昭和53年11・12月	屈折はしご付消防ポンプ自動車(11月南署)及び救助工作車(12月北署)各一台を増車し、装備の科学化・高度化を図る
昭和54年4月	高島、幡多、財田地区の急速な市街化による消防需要に対処するため、北消防署竜操出張所を新築開所、同時に救急車配置 1局、3署、10出張所、消防職員数393名、消防車両47台、救急車7台
昭和54年8月・11・12月	救助照明車(8月南署)、人員運送車(11月竜操)及び消防ポンプ車(12月竜操)、各一台を配置、装備の高度化、消防力の充実を図る
昭和55年3月	災害時の受信、指令体制を整備強化するため、地図検索装置を導入した119番受付指令台を運用開始
昭和55年4月	南消防署福島出張所を新築移転、同時に南消防署岡南出張所に名称変更 定員増6名により、職員数399名
昭和56年4月	定員増5名により、職員数404名
昭和56年7月	主要国道180号線を中心とする高松、一宮及び足守地区の救急需要の増加に対処するため、北消防署吉備津出張所に救急車を配置
昭和56年12月	屈折はしご付消防ポンプ自動車を増車し、北消防署へ配置
昭和57年12月	南消防署旭東出張所を新築移転
昭和58年7月	空気呼吸器等整備5か年計画(空気呼吸器74基、酸素呼吸器101基)が完了し、装備の充実を図る
昭和59年2月	異常気象による37年ぶりの大雪、救急出動1日49件の最多出動記録
昭和59年11月	消防局長人事異動、初の内部登用
昭和60年9月	南、北署発足30周年
昭和60年10月	怒塚山へ海上保安庁ヘリコプター墜落、救助活動を実施
昭和61年3月	北消防署津高出張所を新築移転
昭和61年4月	南消防署岡南出張所を分署に昇格 国際消防救助隊(IRT-JF)発足
昭和61年4月	消防情報通信システムの運用を開始
昭和61年12月	西日本初の最新鋭はしご車(スーパージャイロラダー30m級)を導入し、装備の科学化、高度化を図る
昭和62年4月	総合訓練場完成 職員定数422名
昭和62年11月	「119番の日」制定

昭和63年1月	北消防署津高出張所に救急車を配置
昭和63年4月	岡山市防災行政無線の運用を開始、13署所に固定局を開設
昭和63年5月	自治体消防発足40周年記念式典を開催
昭和63年6月	「岡山市消防史」発刊
平成元年4月	機構改革により総合指令課を新設、西大寺消防署可知出張所を開設
平成元年10月	全国最古の消防車ダッチ(昭和3年式)を復元
平成2年3月	御津町消防事務の事務受託に関する規約の締結
平成2年4月	職員定数 455名 団員定員 3,600名
平成2年4月	緊急通報システムの運用を開始
平成2年4月	岡山県下消防相互応援協定に基づく運用を開始
平成3年4月	北消防署御津出張所を開設
平成3年11月	南消防署岡南分署を署へ昇格、南消防署とし、同時に南消防署を中消防署に名称変更して、4署体制を確立
平成4年3月	高規格救急車を導入し、救急高度化推進整備事業を推進
平成4年4月	警防課に救急救助係を新設 職員定数477名
平成4年4月	岡山県消防学校へ教官派遣を開始
平成4年5月	県下で最初の救急救命士が誕生
平成5年4月	救急業務の高度化等に対応するため、中・北・西大寺の各消防署に救急救助第1係及び第2係を新設 職員定数492名
平成5年6月	自治体消防発足45周年記念式典を開催
平成6年4月	南消防署に救急救助第1係及び第2係を新設し、全署に救助隊の配備が完了 職員定数517名
平成7年1月	1月17日に発生した阪神大震災へ61日間にわたって、延べ車両170台、延べ職員数604名を応援派遣し、消火、救護活動を実施
平成7年4月	女性消防吏員(2名)を初めて採用
平成7年6月	緊急消防援助隊を発足
平成8年4月	消防ヘリコプター導入に伴い、航空隊準備室を発足 操縦士(3名)整備士(2名)を採用 職員定数522名

平成8年8月	高所監視カメラ・消防画像伝送システムの運用を開始
平成8年10月	岡山市消防局シンボルマークを制定 岡山市消防音楽隊カラーガード隊を結成
平成8年11月	ヘリコプター機体導入 公募により愛称「もたらろう」と命名
平成9年4月	消防局航空隊を新設 通信指令体制を2係制とし、総合指令課を警防課に統合
平成9年11月	岡山市消防支援OB隊を結成
平成10年6月	自治体消防発足50周年記念式典「ときめき消防フェア」を開催
平成10年11月	携帯電話からの119番受信を開始
平成11年4月	岡山県消防学校から研修生の受入れを実施(2年間)
平成11年9月	21日に発生した台湾地震災害に国際消防救助隊員2名を応援派遣
平成11年10月	コンピュータ西暦2000年問題対策本部を設置
平成11年12月	消防情報通信センターを保健福祉会館へ移転 新消防緊急指令システムの運用を開始 コンピュータ西暦2000年問題対応のため、年末・年始に特別勤務体制
平成12年4月	中消防署旭東出張所に救急車を配置し、救急救命士を全救急車に配置 倉敷市消防局との、初の人事交流 消防緊急通信指令施設支援情報システムを本格稼働
平成12年10月	6日、鳥取西部地震発生(M7.3)、岡山市で震度5弱を記録
平成12年11月	天皇・皇后両陛下下行幸に伴い、特別警備警戒を実施
平成13年4月	航空隊を警防課に統合 指令課を新設、通信指令体制を3係制とする
平成13年6月	岡山市消防教育訓練センターを開所
平成13年9月	「消防署所適正配置」素案を公表
平成13年9月	9月11日発生したアメリカ同時多発テロに伴い、警戒体制を強化
平成13年11月	岡山市消防タイムカプセル展「20年前と今」を開催
平成14年2月	消防航空隊格納庫落成。ヘリコプターテレビ電送システムの運用を開始
平成14年4月	女性救急隊員を現場へ配置
平成15年1月	一日の救急最多出場件数更新 89件
平成15年4月	総務省へ初の研修生を派遣
平成15年10月	加茂川町と消防事務受託について調印 退職予定職員の前倒し採用を実施

平成15年12月	西大寺消防署可知出張所に救急車を配置
平成16年1月	女性消防団員(33名)を初めて採用
平成16年3月	賀陽町と消防事務受託について調印
平成16年10月	北消防署吉備中央出張所を開所 ※加茂川町と賀陽町とが合併、吉備中央町誕生
平成16年12月	一日の救急最多出場件数更新 94件
平成17年2月	北消防署吉備中央出張所足守救急ステーションを開所
平成17年3月	岡山市・御津町・灘崎町が合併 南消防署灘崎出張所を開所し、これに伴い、玉野市消防本部から職員10名を採用 職員定数562名、団員定員4,200名
平成17年10月	岡山国体、全国障害者スポーツ大会開催に伴う特別警備を実施
平成17年12月	西大寺消防署鉄出張所に救急車を配置
平成17年12月	一日の救急最多出場件数更新 96件
平成17年12月	建部町と消防事務受託について調印
平成18年4月	情報指令課にシステム管理係を設置
平成18年10月	北消防署建部出張所を開所 職員定数566名
平成19年1月	岡山市・建部町・瀬戸町が合併 職員定数584名、消防団は100分団、定員4,800名 旧瀬戸町地域の常備消防については、赤磐市に事務委託
平成19年3月	西大寺消防署鉄出張所を新築移転、同時に西大寺消防署上道出張所に名称を変更
平成19年4月	旧瀬戸町地域についての消防事務委託を解消し、西大寺消防署瀬戸出張所を開所 これに伴い、赤磐市消防本部から職員9名を採用 総務課を消防企画総務課に、警防課の消防係を消防防災係に名称変更 1局、4課、4署、15出張所、1救急ステーション、職員定数602名
平成19年8月	一日の救急最多出場件数更新 102件
平成19年7月	県下初の女性救急救命士が誕生
平成19年11月	消防音楽隊発足30周年記念演奏会を開催
平成19年12月	中消防署庭瀬出張所に救急車を配置
平成20年4月	予防課の危険物係を危険物保安係に名称変更、警防課に指揮隊準備室を新設 職員定数643名
平成20年10月	警防課に指揮第1、第2、第3係12名を配置、3部体制で本部指揮隊の運用を開始
平成21年4月	岡山市が政令市へ移行し、消防局長の階級が消防司監となる



	さらに、西消防署を開署、署の名称を北消防署・西消防署・中消防署・東消防署・南消防署に改め、5署体制を確立(1局、4課、5署、13出張所、1救急ステーション)、管轄区域を再編する 岡山県消防防災ヘリコプター設置に伴い、職員2名を県へ派遣
平成22年4月	防災管理課・救急課を設置(1局、6課、5署、13出張所、1救急ステーション) 機構改革により職員定数650名 西消防署に特別高度救助隊を発隊
平成22年8月	一日の救急最多出場件数更新 120件
平成22年12月	岡山市防災情報ネットワークシステムの運用を開始
平成23年3月	3月11日に発生した東日本大震災へ延べ職員数795名、11車両、消防ヘリ1機を応援派遣し、消火、救護活動を実施するとともに物的支援(備蓄物資(毛布、食糧等))を行う 中消防署を新築移転
平成23年4月	職員定数668名
平成23年6月	すべての住宅に住宅用火災警報器の設置を義務化
平成24年3月	北消防署今出張所を開所(1局、6課、5署、14出張所、1救急ステーション)
平成24年4月	西消防署に高機能消防指令センターを移転整備 消防救急デジタル無線(活動波)の運用を開始 防災管理課を危機管理課に名称変更 消防大学校へ助教授として職員を派遣 任期付職員を採用(危機管理課) 職員定数714名
平成24年8月	常設の災害対策本部室を保健福祉会館8階に整備
平成25年1月	第21回全国救急隊員シンポジウムを開催
平成25年4月	救急振興財団救急救命東京研修所へ職員を派遣 消防救急デジタル無線(共通波)の運用を開始
平成25年12月	一日の救急最多出場件数更新 121件(12月30日)
平成26年4月	危機管理課が消防局から分離し、市長直轄となる 北消防署番町分署を開署(1局、5課、5署、1分署、13出張所、1救急ステーション)
平成26年8月	8月20日に発生した広島市土砂災害へ緊急消防援助隊岡山県隊として、指揮隊、救助隊、後方支援隊等延べ185隊、668名を派遣
平成26年11月	中国・四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練を開催 東消防署を新築移転
平成27年4月	予防課の指導係を設備指導係に名称変更し、違反是正係を設置 東消防署に水難救助隊を配置し、水難救助業務の正式運用を開始 消防団条例定数を4800人から4660人に変更
平成27年7月	一日の救急最多出場件数更新 125件(7月26日)
平成27年12月	消防ヘリコプター「ももたろう」更新、運航を開始 全国の消防本部で初、津波・浸水域訓練施設の運用を開始

平成28年4月	北消防署を新築移転(国内最大級の屋内訓練施設を備える) 特別高度救助隊を、西消防署から北消防署へ配置転換する
平成28年12月	一日の救急最多出場件数更新 126件(12月9日)
平成29年2月	北消防署建部出張所を新築移転
平成29年4月	予防課の予防係を火災調査係に名称変更する 西消防署吉備津出張所を新築移転し、高松出張所に名称変更 職員定数814名 消防隊員用個人防火装備に係るガイドライン2017に準拠した新防火衣の着用を開始 分団数を100分団から99分団へ(1分団統合)
平成29年5月	岡山市消防局公式Facebookを開設
平成29年6月	119番通報等に係る電話通訳業務を開始
平成29年7月	九州北部豪雨災害へ緊急消防援助隊指揮支援隊を派遣 多言語音声翻訳アプリ「救急ボイストラ」の運用を開始 第46回中国地区消防救助技術指導会を初開催 女性消防団員用軽量可搬ポンプを5地区に配備
平成29年11月	「災害対応ピクトグラム」消防防災科学技術賞優秀賞を受賞
平成29年12月	一日の救急最多出場件数更新 132件(12月5日) 年間の救急最多出場件数更新 32,074件
平成30年3月	「続・岡山市消防史」発刊
平成30年4月	機構改革により、1局、2部、5課、5署、1分署、13出張所、1救急ステーション体制とする
平成30年5月	火災調査車の運用を開始
平成30年7月	平成30年7月豪雨発生 ・岡山市初の大雨特別警報発令(7月6日～7日) ・緊急消防援助隊指揮支援隊を倉敷市へ派遣(7月7日～12日) ・岡山県下消防相互応援協定に基づき、県内応援隊として延べ41隊、161名を倉敷市へ派遣 一日の救急最多出場件数更新 165件(7月17日)
平成30年11月	岡山市消防局公式マスコットキャラクター「桃之助」が誕生
平成30年12月	年間の救急最多出場件数更新 33,997件
令和元年5月	「データベースを中心とする違反是正体制の構築」第3回予防業務優良事例表彰消防庁 長官賞を受賞
令和元年6月	緊急消防援助隊「土砂・風水害機動支援部隊」の運用を開始 無人航空機(ドローン)の運用を開始 G20大阪サミット消防特別警戒のため部隊を派遣(6月24日～6月30日)
令和元年8月	全国優良消防職員表彰式の挙行(8月24日) 第48回全国消防救助技術大会を初開催(8月25日)
令和元年9月	平成30年7月豪雨の災害現場での顕著な防災活動に伴い、岡山市消防団が防災功労者 内閣総理大臣表彰を受賞

令和元年10月	Net119緊急通報システムの運用を開始 G20岡山保健大臣会合に伴う消防警備の実施(10月18日～10月20日)
令和2年3月	番町分署に番町特別消火隊が発隊
令和2年4月	予防課の設備指導係と違反是正係を統合し査察指導係に変更、新たに予防企画係を設置 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、三部勤務を実施(4月20日～5月31日)
令和2年5月	「密着！THE岡山消防」がケーブルテレビにて放送を開始(5月16日)
令和2年6月	大規模災害対応複合訓練施設の運用を開始(6月1日)
令和2年8月	中消防署旭東出張所を新築移転し、倉田出張所に名称変更(8月1日)
令和2年12月	救急件数が6年ぶりに3万件を下回る(29,732件)
令和3年4月	消防署機構改正により、消防係、救急救助係を消防救助係、救急係に改組 警防規程改正により、大隊長指揮体制での現場活動を開始
令和3年8月	指令システムと通報者のスマホ映像を活用した「現場映像119」の運用を開始
令和4年4月	南消防署を新築移転
令和4年12月	救急件数過去最多 36,227件 火災件数過去70年で最小 165件 119番受信件数過去最多 47,572件
令和5年4月	職員定数827名
令和5年5月	G7広島サミット開催に伴う消防特別警戒への職員派遣(5月16日～5月22日)
令和5年7月	第51回中国地区消防救助技術指導会を開催(7月19日)
令和5年12月	救急件数過去最多 38,201件 119番受信件数過去最多 50,948件

## 9 歴 代 消 防 長

歴 代	氏 名	在 職 期 間
初代 消 防 長	西 村 富 夫	昭和23年6月 ～ 昭和23年11月
二代 ”	杉 井 正 孝	昭和23年11月 ～ 昭和26年9月
三代 ”	有 道 勲	昭和26年9月 ～ 昭和35年6月
四代 消防長事務取扱(助役)	鴻 上 芳 雄	昭和35年6月 ～ 昭和35年8月
五代 消 防 長	小 野 田 金 太 郎	昭和35年8月 ～ 昭和43年8月
六代 消 防 局 長	高 河 榮 治	昭和43年8月 ～ 昭和51年3月
七代 ”	南 石 元 久	昭和51年4月 ～ 昭和58年6月
八代 ”	北 村 博	昭和58年6月 ～ 昭和59年11月
九代 ”	千 田 稔	昭和59年11月 ～ 昭和62年3月
十代 ”	清 水 克 己	昭和62年6月 ～ 昭和63年3月
十一代 ”	懸 谷 忠 弘	昭和63年4月 ～ 平成3年3月
十二代 ”	加 賀 谷 益 治	平成3年4月 ～ 平成7年3月
十三代 ”	太 田 力 男	平成7年4月 ～ 平成10年3月
十四代 ”	奥 田 勝	平成10年4月 ～ 平成12年3月
十五代 ”	上 池 郁 夫	平成12年4月 ～ 平成14年3月
十六代 ”	荒 島 諄 宗	平成14年4月 ～ 平成16年3月
十七代 ”	中 塚 弘 章	平成16年4月 ～ 平成19年3月
十八代 ”	藤 原 文 法	平成19年4月 ～ 平成22年3月
十九代 ”	難 波 康 廣	平成22年4月 ～ 平成24年3月
二十代 ”	長 瀬 正 典	平成24年4月 ～ 平成27年3月
二十一代 ”	石 田 和 清	平成27年4月 ～ 平成29年3月
二十二代 ”	東 山 幸 生	平成29年4月 ～ 令和2年3月
二十三代 ”	藤 原 誠	令和2年4月 ～ 令和4年3月
二十四代 ”	松 岡 浩 志	令和4年4月 ～ 令和6年3月
二十五代 ”	上 田 匡	令和6年4月 ～

## 10 歴 代 消 防 団 長

歴 代	氏 名	在 職 期 間
初代 岡山市消防団長	田 中 弘 道	昭和22年11月 ～ 昭和23年12月
二代 〃	久 保 清 三 郎	昭和24年1月 ～ 昭和33年2月
三代 〃	木 庭 清 作	昭和33年2月 ～ 昭和34年9月
四代 〃	末 広 博 太	昭和34年9月 ～ 昭和37年2月
五代 〃	日 下 孝 二	昭和37年5月 ～ 昭和44年2月
六代 岡山市消防団長	日 下 孝 二	昭和44年2月 ～ 昭和45年9月
岡山市西大寺消防団長	松 崎 範 夫	〃 〃
七代 岡山市消防団長	日 下 孝 二	昭和45年10月 ～ 昭和49年9月
八代 〃	守 谷 熊 男	昭和49年10月 ～ 昭和52年7月
九代 〃	高 畑 幸 一	昭和52年11月 ～ 昭和57年1月
十代 〃	松 崎 範 夫	昭和57年2月 ～ 昭和61年9月
十一代 〃	前 原 杉 雄	昭和61年10月 ～ 平成7年3月
十二代 〃	佐 々 井 隆 貞	平成7年4月 ～ 平成11年3月
十三代 〃	藤 原 静 雄	平成11年4月 ～ 平成14年3月
十四代 〃	那 須 基 男	平成14年4月 ～ 平成15年3月
十五代 〃	妹 尾 弘 行	平成15年4月 ～ 平成23年3月
十六代 〃	伏 見 義 彦	平成23年4月 ～ 平成25年3月
十七代 〃	井 口 泰 男	平成25年4月 ～ 平成29年3月
十八代 〃	若 林 曉	平成29年4月 ～ 平成31年3月
十九代 〃	安 富 正 史	平成31年4月 ～ 令和3年3月
二十代 〃	岸 宗 一	令和3年4月 ～ 令和5年3月
二十一代 〃	木 村 俊 彦	令和5年4月 ～

# 11 令和6年度重点目標

～地域の力をいかした災害に強く安全・安心なまちづくり～

## 1 消防団との連携強化と消防施設整備を進め、地域防災力の向上を図ります

大規模自然災害発生時における消防団の活動基準を作成するとともに、消防職・団員連携訓練等の実施を推進する。また、機能別団員制度を活用した各種広報活動を展開する。

妹尾出張所及び水難救助訓練施設の整備を進めるとともに、水難救助訓練施設の管理・運用体制を確立する。

## 2 火災による死者の低減を図るため、住宅防火対策と消防法令違反の未然防止及び早期是正を進めます

「住宅火災における最適な避難のガイドライン」を普及させるため、幅広い年齢層を対象としたイベントや出前講座を実施するとともに、地域に密着した広報活動を展開する。

消防法令の周知と違反是正を推進するため、危険度評価の高い防火対象物への立入検査を強化する。

## 3 指揮・安全管理体制の強化と警防体制の再構築を推進し、災害対応力の向上を図ります

署指揮隊の試行的運用と検証を行い、災害現場における指揮体制の確立と安全管理体制の強化を推進する。

多種多様な災害に効率的かつ効果的に対応するため、車両配置と出動体制の改編を検討し、警防体制の再構築を図る。

## 4 救急需要対策と救急教育体制の充実強化を図り、救命率の向上を目指します

年々増加する救急需要に対応するため、北消防署番町分署の救急隊2隊体制に必要な整備を進める。また、短時間の救急需要ひっ迫に対する、救急隊の臨時増隊体制構築に向けた計画を策定する。

救急救命士に実施しているキャリア別教育制度を救急隊員にも導入し、教育体制の再構築を図る。

## 5 消防指令システムと無線通信設備の更新整備を進めるとともに、最適な情報を確実に共有する通信体制を構築します

消防指令システムの更新に伴い、大規模災害時にも消防力を最大限発揮することができる指令管制システムと、ICT技術を活用した情報共有機能の導入を図る。

消防救急デジタル無線設備の更新整備により、無線通信の安定稼働と機能強化を図るとともに、教育プログラムを活用した指令管制業務のスキルアップを進める。

## 12 令和5年岡山市消防十大ニュース

1	<p>新型コロナウイルス感染症 5 類移行により”With コロナ”から”After コロナ”へ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消防出初式を 3 年ぶりに開催(1 月 8 日)</li> <li>・消防操法大会を 4 年ぶりに開催(4 月 9 日)</li> <li>・総務省消防庁主催令和 5 年度土砂・風水害対応訓練を消防教育訓練センターで実施(6 月 8 日～6 月 9 日)</li> <li>・中国地区消防救助技術指導会を 4 年ぶりに岡山市で開催(7 月 19 日)              当局公式 Instagram での種目紹介投稿を契機とし、フォロワー数が政令指定都市で 1 位に(7 月 30 日)</li> <li>・全国消防救助技術大会へ女性消防士が初めて出場(水上の部)(8 月 25 日)</li> </ul>
2	<p>病院前救護体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岡山大学病院ドクターカー運用開始に伴い救急現場への医師出動要請拡大(4 月 17 日)</li> <li>・北消防署第 2 救急隊の運用時間を 24 時間へ拡大(12 月 25 日)</li> </ul>
3	<p>証明書交付の利便性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・り災(届出)証明書及び救急搬送証明書が管轄以外の署所でも交付可能に(2 月 15 日)</li> <li>・電子公印の導入により全署所で証明書の即日交付が可能に(12 月 1 日)</li> </ul>
4	<p>救急出動及び 119 番受信件数の過去最多更新(1 月 1 日～12 月 31 日)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・救急出動件数 38,201 件</li> <li>・119 番受信件数 50,948 件</li> </ul>
5	<p>火災件数の増加と大規模林野火災の発生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・火災件数 203 件(死者数 13 人)(1 月 1 日～12 月 31 日)</li> <li>・12 年ぶりに大規模林野火災が東区瀬戸町寺地で発生(3 月 11 日～3 月 13 日)</li> </ul>
6	<p>住宅火災による死者の低減及び被害の軽減を目的とした取組の充実強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「住宅火災における最適な避難のガイドライン」完成(2 月 10 日)</li> <li>・VR に避難体験アプリを追加(2 月 10 日)</li> <li>・パンフレット「住宅火災からの避難について考える」完成(2 月 22 日)</li> <li>・出火建物の近隣住民への「戸別訪問指導」を実施(4 月 18 日～)</li> </ul>
7	<p>消防団員加入促進を目的とした制度改革の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消防団任用資格を拡充(4 月 1 日)</li> <li>・外国人消防団員の任用開始(4 月 1 日)</li> <li>・機能別団員制度の創設(12 月 19 日)</li> </ul>
8	<p>第 21 代消防団長に木村俊彦氏就任(4 月 1 日)</p>
9	<p>G7 広島サミット開催に伴う消防特別警戒への職員派遣(5 月 16 日～5 月 22 日)</p>
10	<p>火災調査体制の充実強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・火災調査規程及び火災調査規程取扱要綱の改正による火災調査書類の区分及び様式全面変更(4 月 1 日)</li> <li>・高度鑑識資機材(X 線透過装置・デジタルマイクロスコープ)を導入(11 月 1 日)</li> </ul>

## 13 令和6年度安全衛生標語

### 令和6年度 安全標語

安全は 声と指さし 二刀流

### 令和6年度 衛生標語

清潔感 市民に伝わる 信頼感

### 過去(10年間)安全衛生標語

	安全標語	衛生標語
令和5年度	無理するな 無駄と思うな 待つゆとり	お互いに 持ちて和をなす おもいやり
令和4年度	事故事例 学んで育てる 無事故の芽	緩めない マスク消毒 自己意識
令和3年度	声掛けで 緩んだ緊張 張り直し	合言葉「マスク、消毒、換気よし！」
令和2年度	危ないぞ 言える勇気と 聞く心	毎日の 身なりに映える プロ意識
令和元年度	忘れるな ヒヤリで済んだ あの教訓	机上から 見える仕事の 質と品
平成30年度	事故防止 あせる気持ちを まず消火	築こうよ 気付いて整頓 美サイクル
平成29年度	「もしかして…」先を見すえた 予知行動	整えよう 素敵なマナーと 身だしなみ
平成28年度	摘み取ろう 慣れに潜む 危険の芽	爽やかな 笑顔と身なりで 得る信頼
平成27年度	見逃すな 「慣れ」という名の 落とし穴	凛とした 姿に映える 清潔感
平成26年度	大丈夫 慣れた動作に 潜む事故	さしのべる その手はいつも 清潔に